

CBT 方式における障害者特別措置についての意見書

1. 希望する障害者特別措置

計算用のメモ用紙を利用可能にする

CBT 方式で予定されているメモ用の小型ホワイトボードは、

- ・手に何らかの障害のある方にとっては指定されたペンでは書きづらい
- ・小さい文字しか書けない人にとっては文字がつぶれて読みにくい
- ・大きい文字しか書けない人にとってはすぐにボードがいっぱいになってしまう
- ・限られた面積の中で書いたり消したりを繰り返すのに時間がかかる

などの問題が想定されるため、メモ用紙（A4の白紙など）を配布していただき、持参したペンの使用ができるとよい（現状のペーパー試験では、メモ用に白紙を配布）

個別にマウス、キーボードの持ちこみを可能にする

会場に備え付けのマウスやキーボードでは操作ができない場合、自分専用の機器（例えばトラックボール、小型キーボードなど）を持ち込めると、CBT での回答が可能になるケースがある。その際、事前に会場での動作確認ができるとより安心である。

机等の持ち込みを可能にする

自分に合った机の高さで操作できるように、小さい机（車椅子につけるタイプのものなど）の持ち込みを許可していただくとよい。

キーボード入力ができない人への調整を実施する

キー入力を「ソフトウェアキーボード」（画面に表示されたキーボードをマウスでクリックして入力する）を使用して行う人については、その使用を許可していただく。あるいは受験番号等の入力時のみ第三者の補助をお願いする。

メモ用に PC 上の「メモ帳」等を利用可能にする

自力での筆記ができない人については、パソコン上の「メモ帳」などを使えるようにする。あるいは、第三者に口頭でメモを頼めるとよい。

試験会場の下見を可能にする

事前に、会場に備え付けのキーボード・マウスの使い勝手や、机の高さ、車椅子での利用のしやすさ等について確認ができるとよい。弱視など文字が見づらい方のためにはサンプル画面も見られると、文字が読めそうかどうかの判断が事前につく。これらは受験時の対策としてだけでなく、そもそも CBT 方式で受験できるのかどうか、という判断のためにも必要と思われる。

なお、リハーサル試験を受験した「興和東京第一試験センター」では、最大サイズの文字でも弱視の方にはやや不十分な印象を受けた。会場の画面解像度によっても違いが出る可能性があり、事前確認の必要性を感じた。

注)

これらの希望事項は、1月27日の説明会で確認した CBT 方式について検討したものである。

2. 意見提出の背景

1989年より社会福祉法人東京コロニー・職能開発室で実施している「IT技術者在宅養成講座」では、基本情報技術者ならびにITパスポートの合格者が57名にのぼる(前身の第2種および初級シスアドを含む)。これらの受講生のほとんどは重い障害や疾病があり、試験会場への移動の大変さもさることながら、ペーパー試験においても大きな困難さがあった。

例えば、上肢に障害があると、基本的な「ページめくり」や「筆記による記入」が難しく、代理記入等の人的支援をいただいているものの、試験問題のページ間参照や、回答の書き換えなどが自身の思うようにはできなかった。これらは合否において明らかに不利であったため、理解度の高い受講生でも合格できないという現実があった。

しかし CBT 方式ではマウス一つでこれが行えるため、自力でページ間を移動して確認が行えたり、何度も回答を自分で書き直せるなど大きな利点がある。中間の問題がタブ形式で表示されることにより、複数ページに渡っていた長文の問題も解きやすい。また、年2回の試験実施を待たず、希望する会場、希望する時間帯で随時受験ができるようになることは、体調が不安定な受験者等の利便性を飛躍的に向上させるものである。

CBT 方式での受験が難しい方については従来通り年2回のペーパー試験が実施されるということで、そのような受け皿が残されていることは大変ありがたいと思う。その一方で、上記のように CBT 方式による試験の実施はまさに多くの障害をもつ方々が待ち望んでいたものであって、可能な範囲の調整を加えていただくことで、より多くの方の CBT での受験が可能になり、自らの本来の力を発揮できるようになるということを申し述べておきたい。

以上のことを障害者のIT教育に携わってきた法人の責務としてお伝えし、CBT方式における障害者の特別措置について引き続きご検討、ご尽力いただけるようお願いする次第である。

<参考>

他の資格試験の状況について

民間の CBT 試験では、時間延長、マウスやキーボードなどの持ち込み、第三者の操作補助が認められているところが多くある。

例) マイクロソフトオフィススペシャリスト

障がいのある方への支援について(オデッセイコミュニケーションズ)

<http://www.odyssey-com.co.jp/accessibility/>

CBT方式を想定した時の具体的な受験者の事例 別紙(「CBT受験者具体例.pdf」)